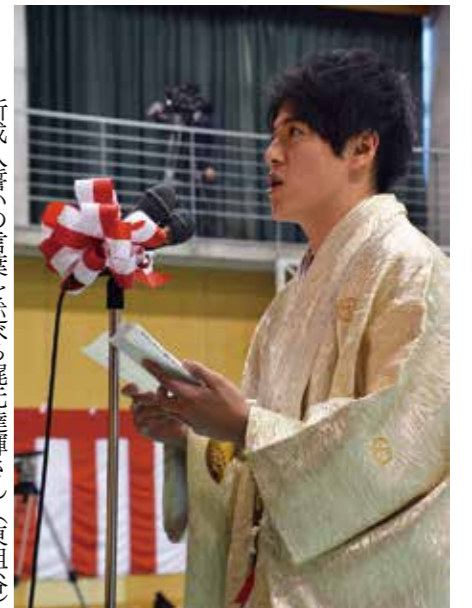


平成31年 三好市成人式



新成人が生まれた 平成10年はこんな年

- ▶郵便番号が5桁から7桁に
- ▶長野オリンピックとパラリンピックが開催
- ▶FIFAワールドカップ開催（日本初出場）
- ▶横浜高校の松坂大輔投手が夏の甲子園決勝戦でノーヒットノーラン
- ▶流行語大賞「ハマの大魔神」
「凡人・軍人・変人」
「だっちゅーの」



新成人誓いの言葉を述べる梶元達輝さん（東祖谷）



新成人企画運営委員のみなさん

新成人269人の 門出を祝う

1月3日、三好市成人式が三好市池田中学校体育館において、華やかな雰囲気の中にも厳粛に行われ、新たに269人が大人への第一歩を踏み出しました。

成人式の対象者は、平成10年4月2日から平成11年4月1日に生まれた方。対象者269人のうち216人（男110人・女106人）が出席し、式典に臨みました。

ハタチの門出を 自らの手で

成人式は、新成人で組織された新成人企画運営委員が式の企画を行い、受付や司会などの運営面も委員が行いました。

司会の南敦紀さん（池田）と江川明花嶺さん（池田）が成人式の進行を行い、運営委員の石川佳果さん（池田）の演奏による国歌斉唱の後、黒川市長が「果敢な行動力をもって自分の理想に向かって堂々と前進してほしい」と新成人を激励しました。

祝電披露の後、新成人を代表して梶元達輝さん（東祖谷）が、関係者や家族に感謝の言葉を伝えるとともに、「平成最後の成人式の感動を忘れず、人生を楽しめる大人を目指して頑張りたい」と新成人の誓いを述べました。

祝電披露の後、新成人を代表して梶元達輝さん（東祖谷）が、関係者や家族に感謝の言葉を伝えるとともに、「平成最後の成人式の感動を忘れず、人生を楽しめる大人を目指して頑張りたい」と新成人の誓いを述べました。

今日を迎える感謝と 明日への希望

成人式のアトラクションとして2本のビデオ映像が上映されました。1本目では、運営委員自ら

が母校の中学校を訪れ、思い出の学び舎を巡ったり、恩師に当時の話を聞いたり懐かしい中学校生活振り返りました。2本目では「198人分のメッセージ」と題した新成人から家族などへの感謝の言葉や恩師からのお祝いの言葉が上映されました。上映中、会場からは懐かしむ声や笑い声が聞こえてきました。終了後、出身地区ごとに記念撮影が行われました。

会場では真新しいスーツや華やかな着物に身を包んだ新成人たちが

が、級友との再会を喜び合ったり肩を抱き合ったり、一緒に記念撮影をしたりして、若さをいっぱい表現して、輝かしい人生の節目を祝いました。



- ①司会は南敦紀さん（池田）と江川明花嶺さん（池田）が行いました。
- ②石川佳果さん（池田）のピアノ演奏による国歌斉唱。
- ③来賓の紹介をする元木彩乃さん（井川）
- ④祝電を披露する中岡由実さん（西祖谷）
- ⑤アトラクションの説明をする森優雅さん（山城）と森下陽奈予さん（山城）

「成人式の集合写真を掲載して欲しい」とのご要望を頂きますが、集合写真が複数枚にわたることや集合写真を小さく掲載すると顔が見えなくなってしまうため、掲載することができません。集合写真は準備が整い次第、市役所本庁・各支所に掲示いたします。

三好市では、2016年度から中学生が海外の生活体験を通して、国際的な広い視野と外国語による高いコミュニケーション能力を身につけ、将来において進展するグローバル社会や世界で活躍できる人材の育成を目的に、三好市が提携する海外の姉妹都市の般家庭に寄宿する海外留学制度を設け、貴重な異文化体験の機会を提供しています。毎年、市内の中学生が留学を体験していますが、今年度も3名の中学生が海外留学を体験しました。

生徒3名は10月5日から11月2日までの約1か月間、三好市の姉妹都市であるアメリカ合衆国ザ・ダルズ市へ留学しました。留学中はホームステイ先から通学し、ザ・ダルズ高校へ入学して同校の生徒と同じ授業を受けながら、高校の先生や友人、ホストファミリーなど多くの人たちと心の通う充実した日々を過ごしたようです。

帰国後の12月27日には、教育委員会主催の留学報告会が行われ、生徒3名が留学体験を発表しました。また今後も、市内小学生を対象に実施している「楽しく学ぶ英語教室」に参加し、留学経験を活かしてALTや小学生等と交流する予定です。

三好市中学生短期留学事業



三好市中学生短期留学事業 スケジュール

10/ 5(金)	9:50 ~ 11:10 高松空港から羽田空港へ 16:10 成田空港 出発 《日付変更線 通過》
	9:10 ポートランド空港 到着 11:00 ~ マルトノマ滝等 見学 12:00 ~ ザ・ダルズ高校 校内見学、オリエンテーション、 対面式 (学校関係者・ホストファミリー)
10/ 6 ~ 28	ホストファミリー宅にて活動
10/ 8 ~ 28	ダルズ高校にて授業
10/29(月)	15:30 ~ 16:15 30周年記念式典 出席
10/30(火)	18:00 ~ 20:00 じゃまたパーティー (送別会)
10/31(水)	8:00 ホストファミリーとお別れ 12:00 ~ ポートランド見学、ホテル宿泊
11/ 1(木)	12:31 ポートランド空港 出発 《日付変更線 通過》
11/ 2(金)	15:35 成田空港到着 19:40 ~ 21:00 羽田空港から高松空港へ

短期留学で学んだこと

池田中学校3年
池北 昴広

アメリカと日本との違いは、本当にたくさんありました。衣服に関して特に思ったのは、建物の中と外とで着る服が全然違うことです。外では厚着なのに、建物の中に入ったら半袖になる人が多くいます。もう冬で温かいわけでもないのに、半袖でいる人にはびっくりしました。また、アメリカの人は傘をほとんどささずにジャンパーのようなもので雨をしのいでいました。

食に関して思ったのは、日本のように決まった主食がないことです。日本の食事は基本的にお米を中心に考えられますが、アメリカの家庭では料理によって主食が変わります。アメリカの食べ物と言えば、ハンバーガーくらいしか思い浮かばなかったのですが、ホストファミリーは、色んな食材でおいしい料理をたくさん馳走してくれました。もちろん本場のハンバーガーはとても美味しかったです。勉強させてもらったダルズ高校では、クラスがなく、受ける授業も自分で選べ、授業ごとに教室を移動します。アメリカはクラス単位の日本と違い、個人単位なんだと思いました。このように国が違うと、生

活習慣もルールも違うことだらけで、毎日が驚きと発見でした。またコミュニケーションをとることが大切だということは、アメリカにいた一か月間を通して感じたことです。僕は留学に行く前から、英語がわからなくても周りの人と、コミュニケーションをとるよう

にしようと思っていました。そしてホストファミリーが優しく、自分もありますが、ステイ先でも自分の部屋にはこもらず、家族と同じ空間にいるように心がけました。また学校でも、わからないことは積極的に聞いたり、翻訳アプリを使ったりして、相手に伝えることをがんばりました。そのおかげもあり、たくさんの人と関わることができたし、英語も少しは分かるようになった気がします。

この経験でコミュニケーションの一つである言語という壁は、一見高そうに見えても、相手に伝えようとする気持ちがあれば、越えられるものだと感じました。またアメリカでよく耳にした「Thank you.」は印象に残りました。日本では会釈で済ませることも、ありがたうと伝えます。家庭でもありがたうは溢れていました。だからなのか、家族の仲はとても良くフレンドリーでした。

僕は今回の短期留学で、他国の

池田中学校3年
藤村 萌衣

私は10月5日から11月2日までの約1か月間、アメリカのオレゴン州ザ・ダルズ市へ留学をし、ホームステイを経験しました。

アメリカの生活と日本の生活は私が想像していた以上に違っていました。まず、アメリカの学校生活では中学校は二年生までなので私は高校生ということになります。高校での授業は75分で休み時間は5分のみ。毎日自分が選択した同じ授業を受けていました。そしてクラスごとに教室が違って、広い校舎で5分の間に移動をするのはとても大変でした。ホームステイ先のホストファミリーの家ではまず、日本と食事が違います。そして家の造りも日本では平屋建てや二階建ての家が多いと思います。でもアメリカでは一階と地下がある家が多くびっくりしました。このような「違い」を実際に自分の目で見ることで文化の違いを改めて感じることができました。

私はこの留学で、たくさんのことを学ぶことができました。その

中でも一番大きかったのはやはり人とのコミュニケーションのとりかただと思っています。言語が違っていても、自分が伝えたいことがすぐに言葉にならなかつたりすることが何度かありました。自分の中に「これで大丈夫かな」「間違っていたらどうしよう」という気持ちがあるのは強み、なかなか自分の思っていることが声に出せなかつたんだと思います。しかし、私が戸惑っていたときに相手の方は私の話を聞こうと、私の方を見て笑顔で待つてくださっていました。私を見て私は相手の方がこんなに私の話を聞いてくれようとしてくださっているからこそ、私も自分が伝えたいことは自分の口から、自分の言葉で伝えよう、と思うことができました。そして自分の言葉で伝えきれなかつたことはジェスチャーでおきなったりしてだんだんと会話が続きたりするようになってきました。このことから私は人とコミュニケーションをとるのにはあまり言葉はいらないのだと思えました。私が話していた英語は間違っ

た単語や文法もあったと思うし、どのように伝えたらいいかわからないときは自分の知っている単語で伝えようとしたこともありました。だから私はコミュニケーションをとることで一番大切なのは伝えようとする姿勢や気持ち、だ

と思います。コミュニケーションを

取ろうとすると、自然と英語も話せるようになっていきました。このようなことを学ぶことができたり、貴重な体験をすることができ、本当によかったです。この貴重な体験を忘れることなくこれから自身の英語の勉強に活かしていきたいと思っています。

井川中学校3年
葉手 尻 実咲

私は、アメリカオレゴン州ダルズ市に1か月の短期留学をしてきました。そこでは、中学生では滅多にできない体験をさせてもらいました。今回、私がアメリカに留学しようと思ったきっかけは、将来海外で働きたいと思っているからです。そのためには、語学力をつけたいと相手との会話もできないと思ったからです。私はアメリカで学んだことが三つあります。

一つ目は、日本の学校とアメリカの学校の違いです。アメリカでは小学生であつても留年や飛び級があります。義務教育の小学生であつても留年があります。生徒の学習レベルが基準に達していないと先生が判断したときは、同じ学年をもう一度繰り返さなくてはならないのです。日本では考えられないことです。私も、ホストファミリーからこのことを聞いた時にはびっくりしました。

二つ目は、文化の違いです。生活習慣、食文化などが全てが違います。アメリカは多民族国家で、さまざまな人種の人々が共存しています。生活習慣では、外に洗濯物を干してはならないことや、救急車が有料であることなど日本とは全く違ってきます。食文化では、牛肉や、トウモロコシ、豆、フルーツ、乳製品など、アメリカでたつぷり生産される食材を生かした料理でした。日本では、考えることのできないぐらいのボリュームに、とてもびっくりしました。